

移住ありきじゃない。 ゆるく、おもしろく、 つながる。栗原。

『くりはらさざぼざ交流会』を開催

11月28日、「くりはら さざぼざ交流会」を開催いたしました。
この交流会は、今回で4回目の開催になりますが、もともとは、市内各地に点在する先輩移住者がつながって、ひとつのコミュニティができれば、そんな軽い気持ちから、移住定住支援員と花山地区地域おこし協力隊が企画・運営し、昨年からはじめたものです。

官民連携の受け皿づくりの第一歩

栗原市では2013年（H25年）から移住定住の推進事業を重点化し、試行錯誤を繰り返しながら現在に至ります。地方移住を検討される方のご相談に応じる中で、当然ながら行政だけでは受け止めきれないケースも数多くあります。そのような課題解消の一環として、官民連携の受け皿づくりを進めています。この交流会はまさにその第一歩だと感じています。



▲さざぼざ交流会に参加された女性のみで一枚♪

私の中の第二のふるさと、栗原。

東北学院大学4年の伏見芽と申します。さざぼざ交流会では、先頭をきって地域づくりをしている方々にお話を伺って、貴重な機会でした。何よりも皆様がいそいそとされていて、栗原を大好きな方々なのだと感じていました。

さて、私たちは栗原市で『移住』に関する卒論を書かせていただいておりますが、特に肝としているのは週末移住です。将来的に定住に繋がれば良いと考えております。正直はじめは栗原市のことを全く知りませんでしたが、調査していくうちに、地域の方々と出会い、豊かな自然環境に触れ、栗原が大好きになっていました。今では、私の第二の故郷だと勝手に思っています。もし見かけたらお話してくださると嬉しいです。



東北学院大学 教養学部 地域構想学科 4年 伏見 芽さん



▲栗原市専属住みます芸人:松井駿治さんのネタ披露!



▲まちクリエイター:柏ハングさんのハンドパン演奏

『肩ひじ張らず、和気あいあい』をこれからも。

今回から「移住者交流会」から「さざぼざ交流会」と名称を改めたのは、回を重ねるごとに、『移住者』という枠に留まらず、移住をキーワードとした「まちづくり・地域づくり」という大きなテーマに広がってきています。

様々な立場の方が集まるものの、開始当初のベースである官民の隔たりや肩書きにとらわれず、肩ひじ張らず和気あいあいとした雰囲気をつくりたい。という思いから、そんなニュアンスの方言である「さざぼざ」を名称に入れました。

今回の交流会では、地方移住を検討されている方や大学生などの参加があったほか、「くりはら まちクリエイター」事業に参加しているアーティストの柏ハングさんによるハンドパン演奏や、栗原市専属住みます芸人の松井駿治さんによるネタ披露があったり、終始和やかに、笑顔の絶えない交流会になりました。

突撃

まちの魅力を感じている人が住んでいける限り、きっと移住者は増えていく。

移住定住について花山地区を事例に卒業論文を書かせていただいております。花山地区では花山独自の人呼び込めるような仕組みを率先して取り組んでいると感じました。花山地区で10月に行われた『千年クロベツアー』では、クロベと紅葉の風景が絵画のように綺麗だったのを今でも忘れられません。

また、ご縁があって『さざぼざ交流会』にも参加させていただきました。移住者の方々が集まって和気あいあいと楽しそうに話をしている様子を見て、自分達が住んでいる町の魅力を感じ、大切にしているように思いました。町の魅力を感じている人達が住んでいる限り、まだまだ栗原市は移住者が増えていくだろうと感じました。卒業まで残りわずかですが、卒業論文を書き終えてからも栗原市に遊びに行きます。

参加者インタビュー



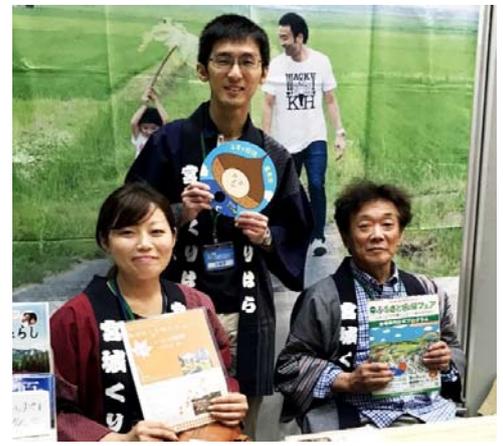
東北学院大学 教養学部 地域構想学科 4年 大井 千穂さん

地域おこし協力隊～花山地区での取り組み～

栗原市地域おこし協力隊

花山地区小さな拠点づくり推進プロジェクト担当 **村山 喜子** さん

栗原市内には現在10名の地域おこし協力隊が活動していますが、今回、さざほぎ交流会のゲストスピーカーとして、村山喜子さんから活動の様子をお話ししていただきました。今号では、交流会の様子が分かる写真とともにご覧ください。



東京からUターン。協力隊として活動をスタート

栗原市では現在、地域おこし協力隊10名が各地で活動していますが、その中で、花山地区では私を含め2名で活動しています。千葉県出身の澤畑学が今年の4月から着任。私・村山は、栗原に来る前は東京で仕事をしていましたが、もともと栗原市一迫地区の出身で、いわゆるUターン組として昨年5月に着任し現在に至ります。

また、私たちの受け入れ団体である(一社)はなやまネットワークの事務局長である佐々木徳吉さんは私たちの上司であり、もはや私の「パパ」でもあり、日々の暮らしからお仕事まで、サポートをしてくださっています。

自分たちでできることは自分たちでやっぴいこう。

栗原市花山地区は、2018年9月末時点で人口は1000人ほど。高齢化率は50%を超え、まさに、少子高齢化が進む典型的な過疎地域です。

このままでは生活サービスも維持できなくなる。交通弱者もよりいっそう増える。なんとかしなければ…と立ち上がったのが、「花山地区小さな拠点づくり推進協議会」です。

この協議会は、花山地区行政区長を中心として、地区内の主要団体と連携しながら、花山地区の中心地である座主集落を「小さな拠点」と位置づけ、持続可能な地域づくりを目指そうと立ち上げた地域運営団体です。

活動をスタートしてから4年。より一層、活動の幅を広げるため、今年5月に法人格を取得。名称を「一般社団法人はなやまネットワーク」と一新しました。

「自分たちでできることは、自分たちでやっぴいこう！」という、気持ちのある花山地区民のみなさんで成り立っている「はなやまネットワーク」の中で、私たち協力隊は、プロジェクトの推進業務を行っています。

空き家利活用プロジェクト「空き家片づけ隊」

「花山には、空き家っていったいどれくらいあるんだろう。」そう思い、昨年、事務局メンバーで1件1件をまわり、実際に調査した結果、70件ほどの空き家が存在することが分かりました。

「そんなにあるんですね！じゃあ、移住者が来たら、そこに住んでもらえばいいんですね」と、一瞬思いましたが、空き家があるものの、すぐに住めるような空き家は、ほんの数件ほどしかありませんでした。



▲空き家片づけ隊の面々。かっぴいいですね～♪

最近、花山に住みたいと希望してくださる移住検討者の方が増えてきました。でも、待っていてもなにも進まない。そんな想いから、「空き家利活用プロジェクト」が動き出しました。一件でも移住者の「住まい」の受け皿を増やすべく活動を開始しました。

空き家には、前の住人が利用していた家具や家財がそのままのところが多くあります。その家財たちを片付けたりお掃除をして、住める空き家を増やしましょう！ということで「空き家片づけ隊」が登場しました。

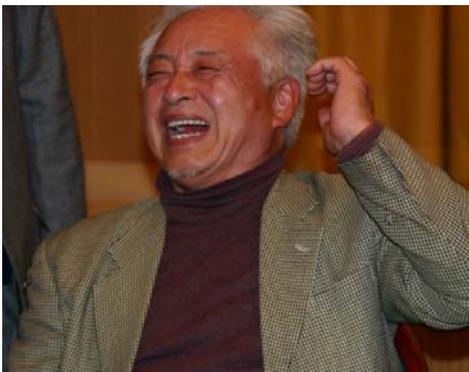
今年は4月の始動から第6弾までやっぴいけました！そのうち第1弾で片付けた物件には、来年1月に移住してくる男性が住むことに決まっています。こうして、一歩ずつの取り組みではありますが、少しでも住まいの受け皿を増やせるよう取り組んでいます。

オンデマンド交通サービスの運行

花山の深刻な悩みとして、交通手段が各段に少ない、ということです。

高齢化も加速度的に進んでいる中で、どうすればよいか。そんな中で、社会実験として「オンデマンド交通サービス」を運営することになりました。

自宅から花山地区の拠点まで、ドアツードアで、利用者を希望の場所へお送りします。事前登録制で無料で利用できます。おかげさまで登録者は現在100名ほどおり、忙しく運行しています。来年度からは栗原市の地域公共交通が再編され、その流れで「はなやまネットワーク」が花山地区の「栗原市民バス乗合デマンド交通」を受託することになりました。





▲移住体験ツアー「かがやく女性たちと過ごす花山いなか時間-秋プラン」での一幕♪

ふさすぐり再生プロジェクト

花山地区は、昭和50年代から小果樹「ふさすぐり」の栽培や加工に取り組んでいましたが、生産者の高齢化や収穫の手間等から、生産者は減少傾向にあります。

そこで「ふさすぐり」にいまいちど注目して、生産性の向上と加工品の開発に取り組み、地域活性化に繋げようと、今年度からスタートしたこのプロジェクトに参画しています。

このプロジェクトには、はなやまネットワークだけでなく、花山サンゼットや花山地区の皆さんも多く関わっています。

その中で、私に課せられたミッションは、今後、商品開発やブランド化を展開するにあたって、ふさすぐりのロゴマークを作成することです。

年明け1月31日には「ふさすぐりフェスタ」と題して、開発した商品やロゴのお披露目を予定されています。

かがやく女性たちと過ごす花山いなか時間

いま私が一番力をいれているのが、この「かがやく女性たちと過ごす花山いなか時間」です。

昨年かから実際に花山に住んで、いろんな人たちと交流を持つ中で感じたのは、地域で元気にイキイキと活躍している女性が、大変多いということです。

家事や育児をして、家族のために忙しい時間を過ごしているのにも関わらず、加えて、地域のためにも取り組んでいる姿をよく見かけます。

その女性たちのパワーをいただきながら、花山の活動に勢いをつけたいと思い、このプロジェクトをスタートいたしました。

地域で元気に活躍している女性たちを、「かがやく女性（通称：かが女）」と名付けて、その女性たちと地方移住を検討している人々をつなぎ、ありのままの花山のいなか時間・田舎暮らしを過ごしていただけたら…そう思い、移住体験プログラムを実施しています。本日も、移住体験プログラムにご参加くださった方が参加してくださっており、私たちとしても大変うれしい限りです。



▲花山地区のかがやく女性たち。皆さん素敵です♪

花山に住んでいる人たちと一緒に 課題に向き合っている

以上が主な活動ですが、共通しているのはいずれのプロジェクトも、その道のプロをいれることなく、すべて花山地区の方達でメンバー構成をし、その都度協力しながら取り組んでいる、ということです。

ですから、正直手探りです。効率も、もしかしたらよくないかもしれませんが、実際に花山に住んでいる人たちと一緒に課題に向き合っている、ということがとても大切ですし、今後も花山の人たちと協力しながら、事業を行っていきたくと思っています。

個人活動についても幅を広げています

また、私に関して言いますと、協力隊の活動の傍ら、印刷物の制作も個別に請け負っております。イベントのチラシやショップカード、名刺など、デザインから印刷までいたします。

依頼してくださった人がイメージするモノになるよう、丁寧に作成することを心がけています。リーズナブルな費用でご提示いたしておりますので、ぜひ、ご活用くださいませ！

ということで、今後とも、ますます地域に入って活動をさせていただければと思いますので、栗原市地域おこし協力隊を今後ともどうぞよろしくお願い致します。



2018-2019 イベントスケジュール

体験プログラムに合わせて、お試し移住体験住宅や市内の民泊施設に滞在してみませんか。詳しくは、定住戦略室にお気軽にお問い合わせください。

12/21
(FR)

くりはら博覧会「らいん」2018冬 【要申込】

麦わら オーナメント「ストロースター」づくり

■日時 12月21日(金) 10時～正午

■会場 くりはらツーリズムネットワーク事務所
(栗原市若柳地区)

■参加費 2,000円 ■定員 10人

▼自家栽培した小麦の麦わらを材料に、星型のストロースターというオーナメントを作ります。



12/22
~25

くりはら博覧会「らいん」2018冬 【要申込】

藁文化ワークショップ「しめ飾り」づくり

■日時 12月22日(土)・23日(日)・24日(月)・25日(火) *各日:9時30分～正午

■会場 くりはらツーリズムネットワーク事務所
(栗原市若柳地区)

■参加費 2,500円 ■定員 10人

▼しめ縄用の青い藁を使って、年神様を迎える「しめ縄」を作ります。



1/13
(SUN)

みやぎ県の

県北地域って なじよなとこ祭 in 東京

■日時 1月13日(日) 13時30分～15時30分

■会場 東京交通会館6F LEAGUE有楽町

■参加費 無料



▼なじよなとこ祭は、宮城県北に位置する7つの市町が県北セブンとして一丸となり、暮らしや子育て環境、働き方などの地域の魅力を紹介するイベントです。

▼参加自治体: 大崎市・登米市・栗原市・加美町・色麻町・美里町・涌谷町

1/20
(SUN)

JOIN

移住交流&地域おこしフェア 2019

■日時 1月20日(日) 10時00分～17時

■会場 東京ビックサイト 東1ホール

■参加費 無料



▼栗原市は「地域おこし協力隊募集ブース」に出展しますが、一般的な移住交流に関する相談もお受けします。

▼どうぞ、お気軽に栗原市ブースにお越しください。

2/3
(SUN)

地域の魅力発信！移住交流フェア

■日時 2月3日(日) 11時00分～17時

■会場 東京国際フォーラム

■参加費 無料



▼栗原市は「発見！山styleゾーン」に登米市と合同相談ブースとして出展します。

▼どうぞ、お気軽に相談ブースにお越しください。(阿部)

くりはら トピックス まちクリエイター!!

まちの魅力を自由に創造する若者たち

栗原市では、2017年から若者たちの新しい交流の形として、若柳地区にある移住体験施設(ピンク基地)を拠点に、縛りのない自由な活動ができるプロジェクトを展開しています。

2年目となる今年度は、全国から約30人の若手クリエイターやまちづくり実践者、それを目指す学生などが集まり、地域の人たちを巻き込みながら、さまざまな創作・表現活動を展開しています。次回号では、この栗原市認定まちクリエイター事業について詳しくご紹介いたします。(※FaceBookで活動の様子を公開中です！)



交通アクセス

【JR東北新幹線】



【東北自動車道】

南北に2つのインターチェンジがあり、市外への移動もスムーズ
 ■築館IC→仙台まで約45分(60km)
 ■若柳金成IC→盛岡まで約1時間25分(110km)

【レンタカー(くりこま高原駅)】

■駅レンタカーくりこま高原営業所
 ■トヨタレンタリース宮城くりこま高原駅前店
 ■ニッポンレンタカーくりこま高原駅東口営業所

移住相談

私たち、くりはら移住定住チームが
ご相談に対応します!!

地方移住を考えている方が思い描く新たな生活が、より豊かなものになるように。

相談会での出会いをきっかけに、継続的に相談対応・各種情報提供させていただきます。

(鈴木・二階堂・松・阿部)



発行元
問い合わせ先

宮城県栗原市 企画部 定住戦略室

TEL 0228-22-1125

Email teijyusokushin@kuriharacity.jp